施設３０周年の思い出

指定障害者支援施設

さくら千手園

障害者支援施設（施設入所支援・生活介護事業）
短期入所事業所（併設型）
日中一時支援事業所

玄　関

食　堂

洋　室

和　室

管理棟

会議室

浴　室

共有スペース

30周年を迎えて
「これまでも　これからも共に・・・」

さくら千手園・山桜
管理者　　山本　和彦

沢山の方々に支えられ、法人設立30周年を迎えることができました。長年にわたり温かくご支援いただきました多くの皆様に心より感謝を申し上げます。

「さくら千手園」は昭和62年6月に開設し、私自身も縁あって職員としてお世話になり、社会人としての一歩を踏み出しました。社会人といってもまだまだ未熟でわからないことだらけでしたので、とにかく毎日が必死でした。その私に今日があるのは、利用者の方々とその家族の方々、そして職場の仲間がいたからだと思います。

気遣って声を掛けてくれる利用者の方々に励まされ、ご家族の方々には、叱咤激励を受けながらも、成長を温かく見守っていただきました。そして同じ思いを持つ仲間がそばにいたこともとても大きな力となりました。一人では無理でも支えてくれる人たちがいるから頑張れる。だからこそ、ここで暮らす方々の心に寄り添い、共感する気持ちを大切にしてきました。

皆さんと過ごした日々を振り返ると、開設当時、周りは山ばかり、活動に使用するグランドや野菜をつくる畑も、皆で木の根とりを行い、整地することから始めました。ブランコや滑り台が置かれたミニ公園もすべて手作りでした。行事では、全員ハッピ姿で踊りを楽しんだ夏祭り、仮装や創作ダンス、そしてかけっこや綱引きで競い合った運動会、全員で出かける親子一泊旅行では、利用者や家族の方々、職員も芸達者が多く、夜の宴会でフラダンスや日本舞踊、演劇などを披露するとホテルの仲居さんも足を止め、見学するほどでした。クリスマス会の時には、全員がパジャマ姿で参加したことや、職員バンドも結成されるなど、本当に楽しかった思い出ばかりです。そして今、グランドや畑があった場所には木の宮学園とさくら福寿苑が建てられ、公園だった場所には、平成19年６月にグループホーム「山桜」が建ち、居住の場の選択肢となりました。

この間、制度は措置から支援費、そして障害者総合支援法の施行と目まぐるしく変化してきましたが、どれだけ制度が変わろうとも、変わらぬものは思いです。これまでの30年を糧に一歩一歩、確実に前に進みながら、これからも共に成長し続け、皆さんが自分らしく、安心した生活が送れるように寄り添っていきたいと思います。そして何よりもこれから先の人たちに、この思いを受け継いでいきたいと思います。

最後に当施設の発展にご協力頂きました皆様方に深く感謝いたしますと共に、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

30周年を迎えて「今想うこと」

管理課課長　　酒井　八枝子

何もわからず大きな不安を抱いて福祉の世界に入ってから、利用者の皆様・保護者の皆様と共に過ごし30年もの時が流れました。右も左もわからない自分に沢山の事を教えて頂いた方々に感謝でいっぱいです。初めてのテーブルマナー？利用者様とのカウンター越しの楽しい会話。運動会での仮装大会やフォークダンスジェンカや、親子宿泊旅行でのお母様によるフラダンス・踊り・カラオケ。とっても素敵でした。北は北海道から南は九州・グアムや韓国などへの海外旅行。飛行機内でのちょっとしたハプニングもありましたね。お庭で日向ぼっこをしながらの爪切りなどもしましたね。どれをとっても楽しい沢山の思い出です。

小さかった桜の木、栗の木・柿の木も今では大きく成長し、園舎の回りも大きく様変わりし、現在では福祉の街として動いています。

いつまでも変わりのないのは、利用者の皆様の心が真直ぐで、心が澄んで美しいところです。私たちも学ばなければなりません。利用者様には「さくら千手園」がゆったりと寛げる生活空間となるように、そして何よりも日々楽しく健康に留意し過ごして頂きたいと思います。

これから10年・20年・50年・・・と千手会の発展、地域の皆様のお役に立てる、愛される法人でありますように。

「未来に語り伝えたいこと」

看護師　　小野田　節子

あれは高校時代の記憶だ。ある重症心身障害児施設に友人と宿泊ボランティアに参加した。中に入ると沢山の子供たちがプレールームで横たわっていた。私はその光景に茫然と佇んだことを鮮明に覚えている。ところが日々寝食を共にすることで、その子なりの遊び方、喧嘩をし合う逞しさ、無鉄砲さ、素敵な笑顔を発見し、自然に溶け込むことができた。あれから40年経つが、今もあの想いは色あせることなく「さくら千手園」の利用者さんとの関わりに活かされている。それはまさに切磋琢磨しながら共に一歩一歩進む道である。物凄く大変な道であると同時に面白さに溢れる道でもある。昨今、福祉を志す若者が減少している。だからこそ「さくら千手園」から、この利用者さんとの深い関わりのできる「支援」の面白さをもっと未来を担う若者に語り伝えようではないか。

創立30周年に寄せて

総合防火安全管理者　　沼倉　久

月日の早さに只驚き、昭和62年6月に精神薄弱者更生施設「さくら千手園」が佐倉市に初めて開所して早30年､18歳で入所した利用者さんも48歳前後に達し充実した生活を送ってきたが、この間病気等で10数名の方がお亡くなりになり悲しい出来事が、今は只ご冥福を祈るのみで、今後は残された利用者さんの健康を最優先に見守って行きたい。お蔭で地域の皆様にご理解を頂き施設との交流も多く大変良い環境にあります。特に施設の防火･安全管理では佐倉市・八街市・酒々井町消防組合の「志津消防署」と日頃から深い交流があり、暖かいご指導と懇切丁寧な指導により、施設職員の防火安全に関する意識が極めて高く施設開所以来、防火関係の事故等は皆無であり、昼夜を問わず見回り点検に従事した夜勤者等の労に感謝します。特に列挙して紹介するのは施設開所時から夜間の総合防災訓練は地元消防署・消防団・防火安全協会・隊友会・警察・保護者会・近隣施設職員・地域住民等が訓練に参加し、深夜まで熱心に共同訓練を実施した。その訓練内容は新聞・テレビでも放映され広く市民に紹介された。この間消防組合から施設の防火管理は優良事業所として表彰を受け、また個人的に防火管理者も防火安全協会から先般表彰を受ける等、日頃より防火365日を念頭に利用者さんの安全で安心な生活が送れるよう支援してきた。特に職員に対する機会教育は、日頃より「防災の知識があるか無いか」で、尊い人命を救うことを強調して機会を捉えて教育を重ねてきた。今後は利用者さんも高齢に伴い今まで以上に、目配り・気配りし迅速に対応していきたいので法人全職員のご協力をお願いし、30周年誌に寄せてと致します。

さくら千手園立上げより30年

調理主任　　菅谷　光子

開園時よりさくら千手園の厨房職員としてお世話になり、30年という節目を迎えられたことを感慨深く思うと共に職場の全ての方々に感謝いたします。

開園当時50名の利用者さんとのスタートで現在56名となりました。昔も今も食事を楽しんでくれている姿と笑顔が見たくて、食事作りに励んでおります。

これからも現場職員と協力しながら、利用者さんにとって大切な食事を美味しく喜んで食して頂ける様に努力し日々を重ねて行こうとの思いです。

今後も日々の生活の中で利用者さんとの関わりを楽しみながら、今あるご縁を大切に心がけながら再スタートを切りたいと思う自分が今います。

最後に、私が事あるごとに心に止めている大好きな詩を書かせて戴きペンを置きます。

「おてんとうさまのひかりをいっぱい吸った、あったかい座ぶとんのような人」（相田みつを）こういう人になれたらいいなと思っています。

旧 農耕班　旧 勉強会

作業活動

旧 軽作業班

旧 紙工房

旧 創作工房

現 アットホーム

現 アトリエホーム

現 エコホーム

旧 外作業班

旧 園芸班

旧 工芸班

旧 生活班

行事・外出 ～時の流れ～

電車に乗って京都へ

頑張ったで賞

佐倉ふるさと広場

地域での散歩

フェリーでの旅行

富士山をバックに

清らかな心で

さつま芋の収穫

行事・外出

～楽しい思い出～

節　　分

奈良の大仏

開所から月に一度
その月の誕生者を
お祝いしています。
もう３０回目の人も・・・

プロ野球観戦

草ぶえの丘

イチゴ狩り

ねぶたの前で

救急研修

行事・外出

～あんな事～

動物園にて

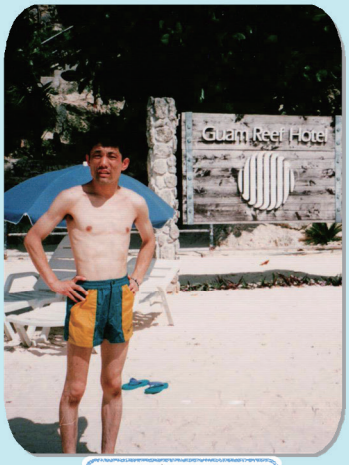
シンガポール

シンガポール・韓国

グアム・サイパン

など…

海外にも行きました



グアム

サイパン

節　分

ハイキング

個別の外出

体力づくり

行事・外出

～こんな事～

房総の海へ

ディズニーランド

宇宙への招待？

利用者の希望に

沿って様々な行事に

参加しています

農道を散歩

音楽発表

茶道クラブ

ひな祭り

春の外出

行事・外出

～これからも～

みんなの笑顔が

続きますように・・・

七夕に願いを込めて

市場にて

３０年前もこれからも

親子旅行

バスの様子

銚子の海岸にて

毎年一回、利用者と
ご家族と職員での
旅行を行っています。
上：一回目のバス

当時の出発風景

昼食の様子

東武ワールドスクエア

成田空港見学

ピラミット？の前で

お楽しみの宴会

伊香保温泉

親子旅行

中華でランチ

フレンチでランチ

アクティブな年・のんびりした年といろいろな旅行がありました。
上：ぶどう狩り

プレイス・オブ・トウキョウでランチ

ナイフと
フォークで緊張気味

エプソン
アクアパーク品川

いざ、出発！

富岡製糸場にて

笑顔のご家族

親子でカラオケ♪

Yamazakura

指定共同生活援助事業所
山　桜

共同生活援助事業所

玄　関

リビング

キッチン

洗面所

浴　室

トイレ

年間行事

楽しかった　あの日、あの時。

利用者の三味線演奏

職員余興のダンス

クリスマス会

職員余興のマジック

職員余興の落語

職員余興のエレキギター

職員余興のマジック

利用者と職員による合唱

職員余興のマジック

新　年　会

大好きな世話人と

焼き肉店で夕食会

大好きな支援員と

一泊旅行の思い出

楽しかった　あの日、あの時。

北陸新幹線で新潟県へ

栃木県日光の紅葉

那須高原の宿泊先前

栃木県日光の紅葉にて

山梨県西湖いやしの里にて

長野県飯田市での機織り体験

栃木県の那須どうぶつ王国

栃木県日光のガラス作り

長野県美ヶ原高原にて

栃木県日光のガラス作り

指定生活介護事業所

木の宮学園

Kinomiyagakuen

生活介護事業所
日中一時支援事業所
パーソナルサポート事業所
移動支援事業所（車両移送型・グループ支援型）

玄　関

玄関ホール

食　堂

多目的室

ポプリの部屋

２階活動室

活動棟

活動棟

「30周年の今、想うこと…」

木の宮学園
地域生活支援センターレインボー
管理者　稲阪　稔

法人設立30周年を迎えるにあたり、当法人の各種サービス等の利用者様、そしてご家族の皆様・地域の皆様・関係機関の皆様、ご支援をいただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

私事ではありますが、当法人と出会い、30年が過ぎ、そして管理者として25年目を迎えています。この間の障害保健福祉施策の変革は言葉に表すことがとても難しいほどの激動でありました。措置制度から支援費制度へ移行し、利用契約によるサービス提供となりました。また、施設・事業所の種別変更や障害種別を超えた事業体系への移行等、事業所として関係法令等への対応に迫られることが多かったと感じています。

振り返れば、昭和62年6月にさくら千手園に入職し、平成5年4月から木の宮学園の管理者となりました。まだ20代の若輩者に本当に管理者が務まるのか。当時の利用者やご家族は大きな不安があったと思います。まだ開設2年目で歩み始めたばかりの事業所を地域での暮らしを支える拠点とするには、何が求められ、何ができるのか、試行錯誤の連続でした。

平成8年から利用時間の延長サービス（現在のタイムケアやナイトケア）を実施し、平成9年からは利用定員を40名から50名に変更することで地域での暮らしを支える基盤をつくると同時に将来的には相談機能の充実が不可欠と考え、平成13年には国の事業であった障害児者地域療育等支援事業の内示を受け、本格的に相談支援事業を開始しました。現在は基幹相談支援センターとしての機能を担っていますが、制度改革が進展する過程においてはなかなか事業継続が厳しい場面もあり、時には辛く、苦しい判断をしなくてはならないこともありました。しかし、多くの利用者の笑顔や笑い声に救われ、ご家族や関係者の励ましや職員一人ひとりの頑張りが大きな支えとなり、窮地を乗り越えることができました。

また、平成19年には佐倉市では初めて、障害福祉サービス事業での指定管理者制度が導入され、南部よもぎの園を受託し運営を開始し、その翌年には佐倉市さくらんぼ園も受託することになりました。財政面での収支分析を行い、地域の利用者ニーズを把握し、より良いサービスを提供するため、必至になって申請するプレゼン資料を作成した記憶が鮮明に残っています。現在でも指定管理者として継続できているのも、受託当時の利用者やご家族、そして職員が懸命に努力された結果と思います。

管理者として、このような時代の流れの中でも、決して変わらないことは「常に利用者一人ひとりを中心にした支援」だと考えています。当たり前と言われるかもしれませんが、

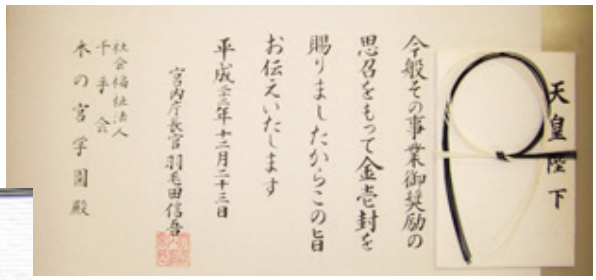
なかなかこの信念を貫くことは難しいなと感じることがありました。ともすれば、事業所や支援者の都合が優先されてしまったり、財政的なことを考えすぎると諦めてしまったり、これは無理だなと決めつけてしまったり……。わかってはいるのですが、正直なところ、偏りが出てきてしまう場面もありました。その度に原点に立ち返り、現状を振り返る時間を大切にしようと心がけ、バランスを保つ努力をしてきたのです。さらに「ピンチの後は、チャンスあり」「ネガティブになりそうな時ほど、ポジティブに」と考えることで私自身が前向きな姿勢を忘れないように意識してきました。

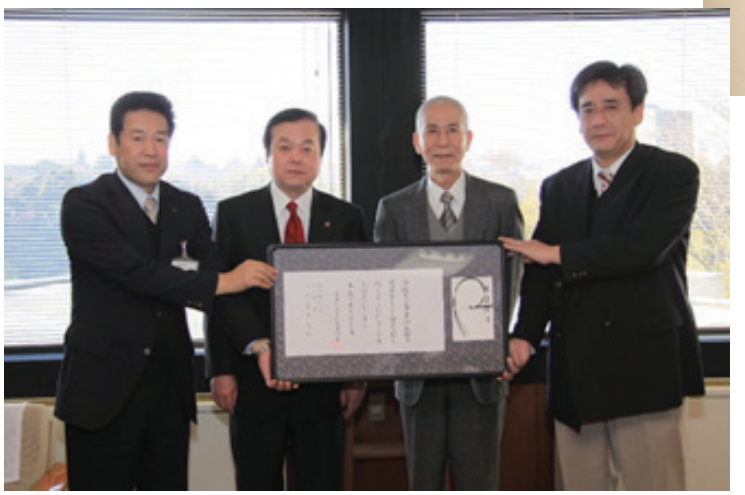
さて、最近になりよく考えることがあります。“なぜこの仕事を今でも続けさせてもらえているのか？”…。確かに長く続けることだけが良いとは思いませんが、これからの時代を支える人材確保・育成・定着には相当の困難が待ち構えていると感じています。若い世代の方々をはじめ、多くの方々にこの仕事の魅力がきちんと配信されているのか。表面的な事柄に目が向けられ、マイナスのイメージが強調されすぎてはいないか。これは、私たちの責任でもあるのではと思います。正直、何ができるかは具体的に難しいですが、この仕事の素晴らしさを地道に伝えていくことが最も大切なのではと思います。

毎年、新任職員を迎える際に研修の場で必ず伝えていることがあります。確かに知識を身につけることは必要ですが、まずは人として「感性・想像力・感謝」を大切しながら物事を考えて下さい…と。これは、利用者の方々への支援においても、ご家族の皆様との信頼関係を築く際にも、職員のチームワークを構築する上にも私が大切にしている言葉です。

30年の歴史に対する敬意と…、今の一歩一歩の積み重ねと…、これからの将来に向けての希望と…。決して、平坦な道とは限りませんが、確実に前進できるように職員一同、前を向いていければと思います。

最後に、支えて頂いた地域の皆様、関係機関の皆様、本当にありがとうございました。そして、これからも末永くご支援の程を重ねてお願い申し上げます。





平成22年12月
天皇陛下より
優良民間社会福祉事業施設として
御下賜金を賜りました

作業班活動

午前と月・金曜の午後活動

農芸班　陶芸班　手工芸班
木工班　外注班　クッキー班

グループ活動

火曜と木曜の午後活動

創作グループ　運動グループ
音楽グループ

運動グループ

創作グループ

音楽グループ

その他の活動

音楽教室　ダンスサークル
絵画教室(2017年3月まで)

音楽教室

絵画教室

ダンスサークル

ロードレース

新年会・餅つき会
成人を祝う会

よいしょー♪どっこいしょー♪

出来上がるかな？

抽選会！当たったよ！

新成人の皆様も一緒に！
かんぱーいっ！！

大人の仲間入り！皆で記念撮影！

新成人になる方はスーツや振り袖、ワンピースなどで正装して出席していただき、晴れ姿を皆でお祝いさせていただいております。
音楽グループの発表や職員アトラクション、抽選会を行い、1年の幕開けとなるイベントを皆と楽しく過ごしています。

芋煮会・学園祭
木の宮フェスティバル

さつま芋の収穫に合わせて
実施していた芋煮会から
学園祭、木の宮フェスタと
規模が大きい行事になりました
平成18年から千手会フェスタ
として実施しています

親子外出

調理実習
一生懸命作ります！
美味しくできますように！

料理体験

お買い物中♪

過去のイベント

夕食はバーベキュー♪
火おこし中！
園内宿泊

泳ぐと気持ちいいね！
プール外出

夏！海！水着！
夏期一泊旅行

ソフトボール大会

さわやか芸能
発表会
出演

合唱と演奏を
披露します！

指定一般・特定・障害児相談支援事業所
木の宮学園地域生活支援センター
レインボー

一般・特定・障害児相談支援事業
千葉県障害児等療育支援事業
佐倉市障害者相談支援事業
佐倉市精神障害者相談支援事業
佐倉市療育支援コーディネーター配置事業

レインボーシンボル

玄関ホール

受　付

ボランティアルーム

相談室①

相談室②

更衣室

入口正面

ボランティア講座

作業活動体験

作業活動体験
福祉講座

レインボー企画

レインボーでは登録者に対して
外出イベントを企画しております。
家族以外との外出が少ない方や
イベント好きな方にご好評いただいております。

地下鉄博物館見学

カラオケイベント

ボウリングイベント

南極観測船見学

自衛隊祭イベント

レインボー企画

　レインボー企画は、家族も参加できるイベントも企画しています。
　家族同士のコミュニケーションの場としてもご好評いただいております。

めんたいパーク見学

銚子旅行

水族館見学

いちご狩り

イタリア料理のランチ

お土産購入

漁港で昼食

Nanbuyomoginosono

指定就労継続支援Ｂ型事業所
指定管理者社会福祉法人千手会

南部よもぎの園

就労継続支援Ｂ型事業所
日中一時支援事業所
パーソナルサポート事業所

全　景

玄関ホール

食堂

作業室

作業室

トイレ

「法人30周年～指定管理10年目を迎えて」

南部よもぎの園
管理者　　須藤　真由美

私は30年前、さくら千手園が開所した時から千手会のお世話になっております。大学を卒業したばかりで右も左も解らないまま、初めて入所施設を利用する皆さんと一緒に日々奮闘していたことを思い出します。支援員としては本当に未熟で、沢山の事を利用者の皆様から教えていただきました。子育てを理由に一度退職した後、南部よもぎの園・佐倉市さくらんぼ園の指定管理者を受託したことを機に、また千手会にお世話になることとなりました。現在2事業所の管理者という立場で働かせていただいておりますが、さくら千手園での経験が私の原点にあります。

南部よもぎの園は佐倉市直営の福祉作業所として長年活動されてきました。平成19年より指定管理者制度導入により、千手会が受託し運営を開始しました。定員20名の就労支援継続Ｂ型事業所として今年で10年が経過します。近隣の企業から外注作業を頂き、毎日、仲間たちとコツコツ作業を行っております。利用者それぞれが自分の得意な作業を担当し、お互いに協力しながら行っています。作業収入は年々増加し、工賃は全国平均額を大幅に上回る事が出来ました。今後もより工賃額をアップできるように努力いたします。外注作業以外に洗車業務や老人施設の清掃業務の委託を受け、少しずつ成果を上げております。施設外の仕事への足掛かりとして今後も進めていきたいと思います。

音楽やスポーツ・アート作品制作など趣味の時間も大切にしています。音楽はスマイルコンサート等に出演する為、音楽療法士の指導の基、1年をかけて練習しています。アートはボランティアのご協力を得て、折り紙で作品を作り、佐倉市障害者作品展に出品しています。スポーツはマラソン・フライングディスク等の大会に出場しています。皆さんそれぞれ得意な活動に積極的に参加し楽しんでいます。趣味の活動を充実させることで、日々の生活に張り合いが出ます。仕事への意欲にも繋がっていきますので、今後も積極的に活動していきたいと思います。

「よもぎ」の仲間は長く在籍されている方が多くいらっしゃいます。皆さんとても仲良しです。皆さんのひたむきに明るく頑張っている姿に、スタッフはとても元気を頂いております。段々利用者さんの年齢が上がってきましたが、いつまでも元気に楽しく生活できるように、これからもお手伝いしたいと思っております。仕事をするということはただ収入を得るということだけではなく、生きる張り合いになるんだということを学ばせていただきました。仕事を通して社会の一員として認められることで、人として生き生きと生活できるんだということを確信しております。仕事を頂いている企業様、地域のボランティアの皆様、日頃のご支援、本当に感謝いたします。そして今後ともご支援いただきますように、どうぞ宜しくお願いいたします。

作業風景

就労継続支援B型として、お仕事をしに来る事業所です。
作業は主に、近隣の事業所からの受注作業を行っています。
・飛行機の機内で使用されるヘッドフォンのクリーニング
・ギフト用のアロマオイルラッピング

ヘッドフォンクリーニング

アロマオイルラッピング

洗　　車

行事

・日帰り旅行
・千手会フェスタ
・新年会など

ANA羽田機体工場見学

上野動物園

鴨川シーワールド

鉄道博物館

東京スカイツリー

余暇活動

作業の合間には、余暇活動も行っています。

・手をつなぐスポーツの集い　・スマイルコンサート
・折り紙教室　・作品制作
・フライングディスク大会　・さわやか芸能発表会
・マラソン大会

手をつなぐスポーツのつどい

折り紙教室

スマイルコンサート

作品制作

フライングディスク大会

さわやか芸能発表会

マラソン大会

ゆうあいピック駅伝

指定障害児通所支援事業所
指定管理者社会福祉法人千手会

佐倉市さくらんぼ園

Sakurashisakuranboen

福祉型児童発達支援センター
放課後等デイサービス事業所
保育所等訪問支援事業所
特定・障害児相談支援事業

玄　関

玄関ホール

医務室

療育室

保育室

水中療育室

園　庭

個別指導室

「法人30周年～指定管理9年目を迎えて」

佐倉市さくらんぼ園
管理者　　須藤　真由美

さくらんぼ園は昭和46年に佐倉市直営の「マザーズホーム」として開園し、地域の支援の必要な子どもの為に、長年にわたり活動されてきました。平成20年４月、指定管理者制度導入により千手会が受託し､｢児童デイサービス事業所｣として運営を開始しました。その後法改正に伴い、平成24年７月より「福祉型児童発達支援センター」に移行し、「児童発達支援」「放課後等デイサービス」「保育所等訪問支援」「障害児・特定相談」の多機能事業所として活動させていただいております。定員を20名から30名に増員し、現在の契約者数は当初の2倍強まで増え、年間の延べ利用者数も増加しています。様々な事業を展開する事で､子どもに関わる全ての事に対して支援できるように努力してまいりました。

子どもの成長を保護者と共に見守りながら、今何が必要なのかを考え、そして一緒に悩み、療育を行ってまいりました。子ども達の成長を間近に見ることができ、保護者の皆様と一緒に感動を味わせていただいております。それがスタッフにとって何よりの喜びであり、やりがいに繋がっています。

当園を利用されている3歳以上のお子様の9割以上は､幼稚園･保育園を併用しています。これ程、地域の幼稚園･保育園が受け入れてくださる地域は全国的にもとても珍しいです。多数の園と連携を取らせていただいているおかげで、子ども達は地域の中でのびのびと生活する事ができています。子どもが成長するうえで地域のサポートは不可欠ですし、同年齢の子どもと一緒に生活する事で、多くの事を学び成長していきます。これも地域の皆様のご理解があってこそ実現できているのだと思います。

私たちは子育てに苦戦している保護者の皆様に少しでも子育ての楽しさを実感していただきたいと思っています。誰にでも愛される子どもに育ち、自分らしく生活できるようになって欲しいと願っております。これからも皆様と一緒に悩み考えながら、少しでもお役にたてるように頑張ります。就園・就学に向けて、また社会に旅立つ日に向けて、お手伝いしたいと思っております。これまでご支援いただきましたボランティアや地域の皆様、本当に感謝いたします。そして今後ともどうぞご協力の程、よろしくお願いいたします。

活動紹介

児童発達支援

公園遊び

制作（七夕飾り）

調理
（ロールサンド）

感触遊び
（パン粉遊び）

理学療法

調理実習（高学年）

おいしく作れるように頑張るぞっ！

（デザート作り）

水中療育（低学年）

放課後等デイサービス

行事紹介

ファミレク

お面作り

うまく作れるかな？

ヨーヨー釣り

ねらいを定めて・・・！

遠足

ちょっとドキドキしたけど

触れたよ♪

ハロウィン

☆トリック　オア　トリート☆

クリスマス会

Merry Christmas

サンタさん
プレゼントありがとう♪

ツリーの前でダブルピース

新年会

毎年恒例♪

音羽太鼓さんによる太鼓演奏

こっけさんからの福のプレゼント

就学を祝う会

～賞書授与～

小学生になっても
ずっと応援してるよ！
職員一同より

～ともだち欲しいなオオカミくん～

～おおきなかぶ～

Sakurafukujuen

地域密着型小規模特別養護老人ホーム
さくら福寿苑

地域密着型小規模特別養護老人ホーム
短期入所事業所（空床型）

ユニット

医務室

玄　関

利用者部屋

個　浴

特　浴

事務室

厨　房

「30年の重みとこれから」

さくら福寿苑
施設長　　石川　志津子

昭和62年にさくら千手園が開設して以来、障害福祉事業とともに千手会は、過ごしてまいりました。当時、佐倉市内の障害者入所施設は、初めての設立であり開設にあたっては多くの苦難があったと伺っております。

昭和62年１月、開園準備時のインタビューとして、千葉日報に現理事長のこんな記事が載っています。「更生施設だけでは片手落ち。理想としては授産施設や通所、高齢になった時の老人施設も必要となる」

あれから四半世紀、当初の想いはひとつひとつ確実に形となっていきました。

平成26年、地域の為又障害のある方が高齢になっても、生活環境を変えることなく、慣れ親しんだ敷地内で暮らせるようにと、法人初の高齢者福祉施設が計画されました。山林だったこの土地に、施設を建設するにあたり、近隣の皆様のご理解ご協力を賜り、地域密着型の小規模特別養護老人ホームさくら福寿苑を開設いたしました。2年後の平成28年10月､縁あって私が施設長としてこちらの施設に就任する事となりました。当時も現在も、地域密着型小規模特別養護老人ホームは、佐倉市でも数少ない施設です。20名という小さな入所施設では、経営的に厳しいこともございますが、慣れ親しんだ地域で、最期の時までゆったりと生活していただく事の大切さを一番にとの思いから､日々励んでおります。そしてこの先、障害の有る無しに係らず、地域の一員としてともに助け合い、共生できる社会を築いていけたらと思います。

法人30周年を思う時､さくら福寿苑はようやく３年が経過し､まだ10分の1の歩みです。一つ一つ積み重ねてきた30年の歴史と法人理念の重さを大切にしつつ、高齢者福祉を担う者として、真摯に歩んでいきたいと思います。

末筆ながら、改めてお世話になりました方々に深謝するとともに、これからのさくら福寿苑の歩みにも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

穏やかなくらし

新年祝い

フェスタでポーズ

昔とった杵柄

納涼　すいか割

お楽しみの
ケーキバイキング

四季のたのしみ

季節を感じていただきたい
楽しいもようし物を行って
もっと沢山の笑顔集めたい
さて、次はどこでどんな
遊びをしましょうか

チューリップ祭り

お散歩

織り姫になる

うつくしいおひな様と一緒

懐かしい再会

念願のビールで乾杯

劇団福寿苑

ハイ！ポーズ